



相ノ木っ子だより



令和4年度
7月号
上市町立
相ノ木小学校

一瞬一瞬、自分で判断

先月は、夏真っ盛りとも言えるような暑さが続きました。まだ体が慣れていなかったせいでしょうか、とても疲れを感じる日々でした。今月に入ると、梅雨が明けたにも関わらず豪雨の日があったり、日差しが強く照り付ける日があったりと、やはり蒸し暑い日が続いています。そんな中、子供たちは元気に過ごしており、また一段と成長した姿を見せてくれます。宿泊学習で共同作業、野外活動を楽しんだ5・6年生は、協力しながらカレーライスを作り、キャンプファイヤーで盛り上がり、来拝山に登り、学級内、学年間の絆を深めました。また、先月号でもお話したように、5年生はグループホーム逢の希を訪問し、お年寄りの方と一緒に七夕の短冊を付けたり、けん玉を披露したりしました。さらに、こんにちは訪問で一人暮らしのお年寄りの方にプレゼントを渡してきました。お年寄りの方々は子供たちの来訪をととても喜んでおられましたし、子供たちも充実した時間を過ごすことができ、福祉について体感できる学びをしてきました。他の学年も、学期末の学習のまとめをしっかりと行い、校外学習やふるさと学習等に楽しく参加していました。この調子で、たっぷりある夏休みにおいても、充実した日々を送ってほしいと願います。

とは言え、これからが本当の夏本番。先日配布したプリントに表記しましたが、「周囲との距離をとったり、会話しないようにしたりしてマスクをはずすようにする」「暑い時期のしばらくは、ヘルメット着用にはこだわらず帽子等で登校してもよい」など工夫しながら、熱中症に十分注意しなければなりません。さらには、第7波の到来でしょうか、コロナウイルス感染が今月に入って急激に拡大し、今後さらなる陽性者の増加が懸念されます。熱中症対策と安全確保や感染予防をどう兼ね合いをつけていけばいいのか、その判断は非常に難しいものがあります。どちらも命にかかわること、自身の健康・安全に重要なことであるからこそ、わたしたち大人が状況を判断し、子供たちに示してあげることが大切です。それでもやはり、子供たちがその時その時の状況に応じて自分で考え、行動することも必要になってきます。また、以前からお話ししていることですが、今の時代子供たちにはたくさんの情報が入ってきます。その中には、あやふやなものやフェイクニュースのようなものも多く、正しい情報かどうかを自分で判断し、行動することはなかなか難しいものです。そういった観点においても、子供たち自身で判断できるようになっていくことが大事なのです。

アメリカの自己啓発活動家のアンソニー・ロビンズは、次のように言っています。

周りで起きていることはコントロールできないが、

何に意識を向け、物事をどう感じ、どうするかは決断することができる。



今のわたしたちを取り巻く状況は、なかなか思い通りにいかないことが多いです。そして、わたしたちが努力したとしても、改善していくことは非常に困難なことです。でも、その中であってどうしていくべきかを考え、行動することは、正解というものはないでしょうが、自分でできることではあります。

また、オーストリアの心理学者ヴィクトール・フランクルは、こう言っています。

どんな瞬間にも、人間は決断しなければならない。

より良くなるために、あるいは、より悪くなるために。

それが、生きてきた証となる。



日々人間は、小さなことから重大なことまで、自分で判断・決断しながら生きています。すぐ状況が変わってしまう今の時代においては、将来にわたって自分で判断・決断していく力を子供たちが身に付けることは、極めて重要なことになってきます。ですから、よりよく生きようと意識し、一瞬一瞬の判断に敏感になることが何より大切なのです。よりよい自分の生活のために、自分で判断し、自分で決めていく相ノ木っ子であってほしいです。



しっかり育てて、ぐんぐん育つ

「校長先生、見てください」

下校時、職員室に「さようなら」の挨拶を元気に交わしていく子供たちの姿があります。そんな中、ある2年生が、冒頭の言葉を掛け、わたしを呼ぶんです。手に大きなスーパー袋を持ち、中に何かが入っており、わたしに見てほしいと言うのです。袋を広げて覗き込むと、たくさんキュウリが入っており、手頃な大きさのもあれば、ものすごく育ったもの（いわゆるお化けキュウリ）もありました。自分たちの畑で育てた野菜たちが、いよいよ収穫できるまでになったようです。苗を植えてから大切に育ててきたであろうキュウリ。その子は、大きく育つこと、収穫できることをきっと楽しみにしていたでしょうし、わたしに見せに来た様子はとっても自慢げでした。

2年生が育てている多種多様な野菜畑は、まるでジャングルのように葉が生い茂り、たくさんの実がなっています。他の学年の畑も、ネギ、ゴーヤ、スイカ、カボチャ等がずいぶん成長し、大きくなってきました。グラウンド南側の5・6年生のバケツ稲も、順調に育ってきています。また、児童玄関の方とは言うところ、1年生のアサガオがずいぶん伸びてきて、朝きれいな花を咲かせています。3年生のヒマワリも、背丈が大きくなり、太く頑丈になってきました。

実業家の石原広一郎氏は、次のように言っています。

農家の仕事は短調で、しかも重労働である。

収穫期には早朝から深夜まで働き通しだった。

土を相手の仕事には人間関係の煩わしさはないし、

手がけた作物の成長を日々見るのは楽しいものである。

肉体的な苦労はあったが、自然の中で豊かな気分を養うことができた。



「手塩に掛けて育てる」「成長過程を見守る」「収穫を喜び、そして祝う」…。本業の農家さんには遠く及びませんが、子供たちが土にまみれて、汗水流して、一生懸命栽培活動や農業活動に取り組むということは、たいへん尊いものだと思います。

植物を手本にして生きれば、まちがいはない。

これは、世界で初めて無農薬・無施肥のリンゴの栽培に成功した木村秋則さんの言葉です。それぞれの学年が工夫しながら野菜や植物を育てる活動を行うことで、子供たちの勤労や仕事といったものに対する考え方、自然や生物に対する見方といったものがずいぶん違ってくるのではないのでしょうか。そして、作物の成長を見守り、その姿に感動し、「自分もこうありたい」とそのたくましさやはかなさを見習うことが、子供たち自身の成長にとって大きなものであると思います。

相ノ木っ子のみんな、しっかり育てて、ぐんぐん育とうね。

行事予定(7月中旬～9月中旬)

7月18日(月)	(祝)海の日	9月1日(木)	第2学期始業式
20日(水)	団体鑑賞 下校 15:40	10日(土)	町科学展(～9/12)
21日(木)	地区児童会 下校 14:15 こども110番の家訪問	14日(水)	運動会予行練習
22日(金)	第1学期終業式 下校 13:45	17日(土)	秋季大運動会
25日(月)	夏季休業(～8/31)	19日(月)	(祝)敬老の日
29日(金)	6年親子ふれあい活動(立山登山)	20日(火)	振替休業日
8月11日(木)	(祝)山の日		
19日(金)	全校登校日		
21日(日)	親子奉仕活動 6:00～		

